

# 天文学とプラネタリウム

第64回



今月のお題

## 皆既日食を振り返って



天プラにとっても皆既日食は一大イベントでした。みなさんも一緒に振り返ってみませんか？



www.tenpla.net

高梨直紘 (国立天文台 光赤外研究部 研究員)

平松正顕 (台湾 国立清華大学)

### 世紀の大イベント 皆既日食

みなさんは、7月22日の日食は楽しみましたか？ 地方によっては晴れないところもあったかもしれませんが、2012年の金環日食も今から楽しみです。天プラにとって、今回の皆既日食のような大きな天文イベントに遭遇するのは初めての経験でした。この機会を逃さず、豪華客船での日食クルージングの提案、旅行業者向け日食勉強会、さまざまな媒体への記事執筆、事前講習会、各地での日食観察会など、考え付く限りの試みを行ってみました。しかし、こうやって日食が終わってしまうと、もっと有効にこの機会を活用できたかも？と思えるところも多々ありましたので、ここにこれを記録し、次回の大きな天文イベントに備えたいと思います。

私たちの大きな反省点は、これほど世間が騒ぎになるということを読みきれなかった点に尽きます。ふだんからさまざまな機会でも多くの方と接しているつもりになっていましたが、まさかここまで日食が話題になるとは想像が足りませんでした。日食を楽しむための企画を提案し

ても、全体として反響を過小評価して企画を設計していたように思います。要は、経験不足のため、自信がなかったのです。本当に騒ぎになるのかな…と。ネット、テレビ、新聞、雑誌…さまざまなメディアがこぞって皆既日食を取り上げました。もちろん、天文業界からも積極的に情報発信が行われましたが、それはあくまでもきっかけに過ぎず、社会という装置によって大きく増幅され、世間を揺るがしたように思います。この力は、どのような構造から生み出されたものなのか、しっかり分析して、私たちの今後の活動に活かしたいと考えています。

大彗星の飛来、流星嵐、銀河系内での超新星爆発、太陽系内天体での生命発見、第二の地球の発見、高度な社会を持った地球外生命の発見…これらは、可能性の大小はあれ、今後必ず起こりうる天文の大イベントです。このようなイベントが起きたときに、天プラという活動を通じながら2009年の皆既日食を体験した経験を活かし、多くの人に天文学の魅力に触れる機会を提供したいですね。早くそんな日が来ないかなと。



天球儀の出荷準備に動む天プラメンバー(上)と、作業の合間にフィルターシートと菓子箱で日食グラスを自作する高梨(下)。日食仮面は当日大活躍…したとかしないとか。